

農産物輸出の 課題と対応

2017年3月31日

九州農産物通商株式会社 波多江 淳治

1 輸出の課題

近隣国(とくに中国・韓国産)、国内産地との競合

りんご(中国、NZ、USA)、なし(中国、韓国)、いちご、富有かき(韓国)

複数輸入ルート間の競合

自由貿易のなかで卸売市場を経由した農産物の流入

植物検疫、ポジティブリスト制への対応(残留農薬)

産地と連携した輸出用園地の整備・防除基準

放射能物質に係る輸入規制

流通コストの低減

海上コンテナによる輸送、共同輸送体制の構築による積載効率の向上

商品提案力の強化

産地間連携体制の構築による共同プロモーション活動、提案アイテムの拡大、輸出課題の共有化

信頼できるパートナー関係構築

2 流通コストの低減に関する課題

エア便による輸送から海上コンテナによる輸送へ

- ・ 共同輸送システムの構築が必要

現状、各県がバラバラで量がまとまる機会が限定

海上コンテナの問題

- ・ 輸送に日数が必要

輸送に耐え得る農産物が商品となる

果実:リンゴ、みかん、柿等

野菜:甘藷、長芋、大根、人参、かぼちゃ等

【輸送日数】*博多港から仕向地
*香港:5日程度
*台湾:3日程度
*タイ:12日程度
+ 検疫等で日数が必要

- ・ 混載が難しい

農産物の種類によっては呼吸システムが異なる
そのため、温度・湿度も加味する必要あり。

- ・ 鮮度を保持するコンテナの開発・普及の遅れ

2 流通コストの低減に関する課題

コールドチェーン化に対応した港の施設整備

港や空港までの国内輸送に関する課題

- ・ 各県(産地)から直接仕入れを行う場合、港や空港までの輸送費が高く、輸出の障壁となっている
 - * 少量の場合、宅急便での対応となる等
- ・ 各県が持つ市場への輸送を活用した横持ち対応が困難
 - * 納品時間の問題(市場の納品時間とずれ)

- 課題と今後の方向性については、農林水産省の「農林水産等輸出力強化戦略」にて整理